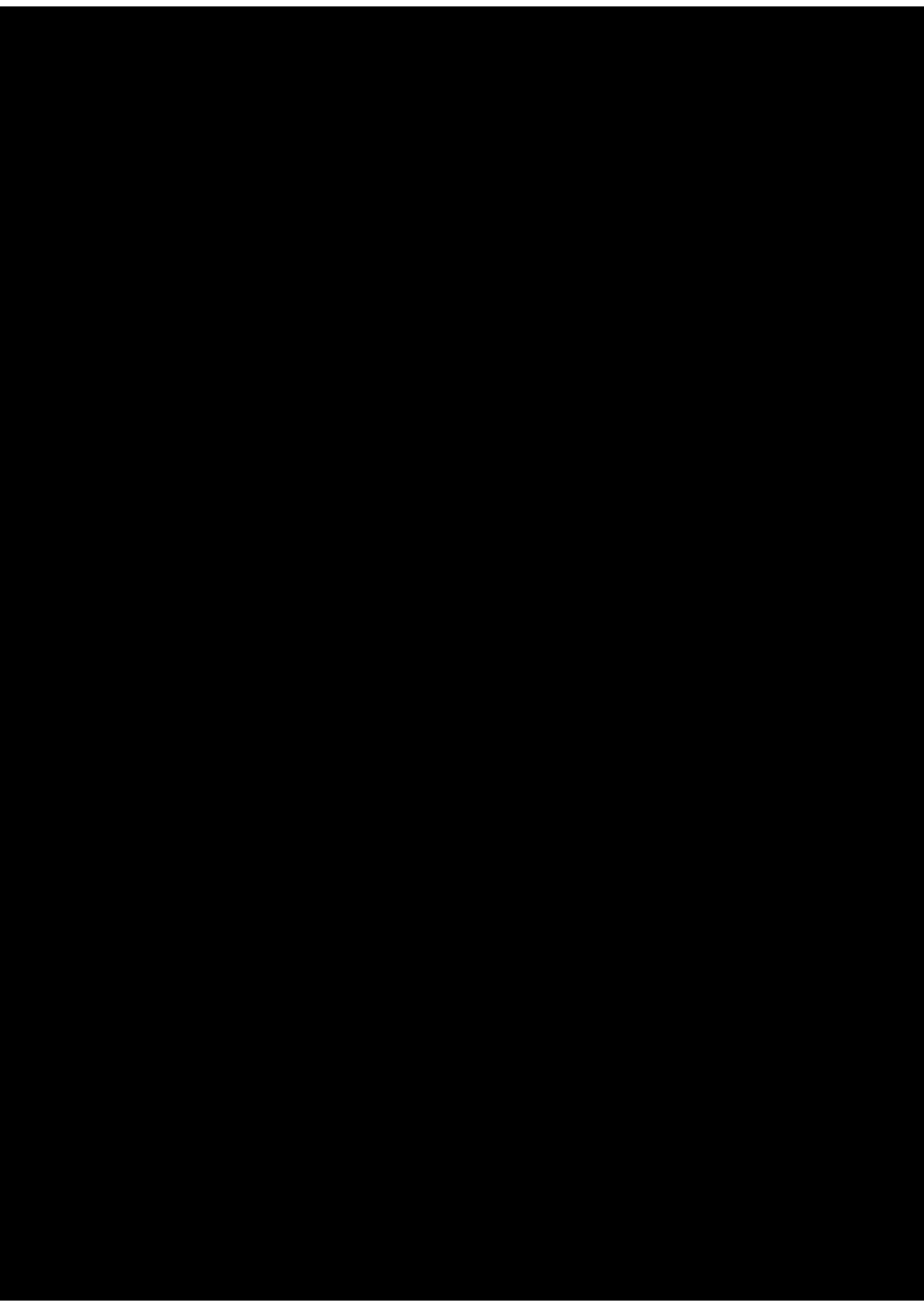


甘
やか
せつ
くす
ふれ
んず



それは、まだ私が
日々心が磨り減り、限界も近づいていた頃の話。

その頃の私は、
不得意な仕事を
毎日失敗を繰り返しながら
頑張っていました。

仕事も人付き合いもうまくいかず、
頼れるような人もなく、
どうにもならなくなっていました。

疲弊していて、大好きだったアニメすら
観る気力も起きなくなっていました。

その日もいつものように、
無気力に布団に横たわりながら
SNSを眺めて
気を紛らわせていると……

ある一つのアカウントの
写真が目にとまったのです。



みんなのおねえさん@ひみつの退行フレンド@○○○_○○○○○
たまには子供のように甘えたいよね
#ひみつの退行フレンド



15 5 41



みんなのおねえさん@ひみつの退行フレンド@○○○_○○○○○
こっそり誰にも見せられない心と体のこと、
全部見せ合って癒し合ひましょう
#ひみつの退行フレンド



10 3 45



みんなのおねえさん@ひみつの退行フレンド@○○○_○○○○○
男子も女子もお兄さんもお姉さんも
癒されたい人おいでおいで
#ひみつの退行フレンド





みんなのおねえさん@ひみつの退行フレンド

@○○○_○○○○○○○ 0フォロー中 27フォロワー

甘やかし合いの退行SEXセラピーと一緒に人には言えない性癖を
曝け出し合って癒し合いませんか？
こっそりひみつの退行フレンド募集中です。

私は偶然目に入った
その眩きとアカウントに
釘付けになりました。

その人は、男子も女子も年齢も関係なく、
子供をあやすように優しく甘やかして退行させ、
様々なSEXで癒やしているようでした。
複数人で甘やかし合う日もあるようです。

そのアカウントと出会った時、
まだフォロワーは30人にも満たなかったのに、
すぐに沢山のアカウントから
フォローされるようになり、
500人を超えた辺りで鍵がかかりました。



そして、
多くの柄の悪いアカウントはフォローを外されて、
吟味された50人程度の人のみが見ることを許可されたままになっていました。

私もその中に残されていました。

フォロワーさん達のプロフィールを見ると、
裏アカウントが多く、
優しそうな人や、心がすさんでいる人、
私と同じように疲れている人が多いようでした。

「沢山のフォロー申請ありがとうございます。

私の許容量を超えてしまったのでごめんなさい。

今、切実に癒やしが必要で、助け合いの心が見える方が
フォロー申請して下さい、

もう少し余裕が出てきた頃に、またアカウント開放するかもしれません。

気長にお待ちいただければ幸いです。」

その閉鎖的な空気を感じられる鍵アカウントの中では、週に何度かその『セラピー』の写真が載せられ、おねえさんはフォロワーさん達へ丁寧に戻事をし続けていました。

私はその優しさに溢れた眩きの数々に日々癒やされているうちに……そのおねえさんにとっても好感を抱くようになり……

そしてその行為への興味の渦に飲まれていきました……

私もこんな優しい素敵の人に……こんな風に甘えたい……

こんな風に甘えながら…… ああ………

でもこんなこと……

こんな誰にも言えないような事してしまつたら……

その後ろめたさとは裏腹に……
ある日私はついに……

その行為を……
おねえさんのおっぱいを子供ののように吸い、
甘える妄想をしながら、



一人でシて
イってしまいました…。

んら

フー

フー

フー

ふらっ

ふらっ

フー

フー

フー

ブル
ブル

ブル
ブル

ブル
ブル

ビク
ビク

ビク
ビク

クチ
クチ
クチ

ブル
ブル

ブル
ブル

ブル
ブル

ブル
ブル

ブル
ブル

ブル
ブル

ブル
ブル



その時、私の心は完全にこの……
人には言えないこの淫靡で官能的な行為への
虜になってしまったのです……

うわぁ……
こんな感じ……

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ



こんな事を
するようになって……
私………

こんな事に
これ以上はまってしまったら、
誰にも自分の本当の欲求を
曝け出すのが怖くなり、
誰とも恋愛できなくなって
しまうのではないかと……

そんな不安になりながらも、
子供のように退行しながらの
自慰は日々止まらなくなり……

でも、その時間は、
日々の辛さを忘れさせてくれる
唯一の時間に
なっていました……

いつの間にか、
その退行自慰とアカウント主のおねえさんの事を、
深く好きになってしまった頃、

おねえさんから新しい『募集』がありました。

「ひとりの子が元気になって巣立って行ったので、
新しく私に直接癒やされたいフレンドを
募集したいと思います。」

「今まで何人かの疲れていた子が
すっかり元気になって巣立っていきました。」

私はその書き込みを見ると息をのみ……

何かいけない事を
しているような意識を感じながらも……

応募の文章を打つ手は止まらず……

おねえさんに
メッセージを
送っていたのでした……

指定された集合場所は、
路地裏の隠れ家のような喫茶店でした。

ドアの小さい看板にはシンプルに店名だけが書かれており、
外からは二見、何のお店かすら分からない喫茶店。
営業しているのかどうかもわかりませんでした。

意を決してドアを開け喫茶店に入ると、
お客さんは例のおねえさん一人だけでした。

店員さんは私に紅茶を出すと、察するよう
カウンターの奥の影へと消え、
おねえさんと二人だけの空間になりました。

そこに居たおねえさんは、
地味めだけど背が高く、

性的な募集をしている人とは思えない程
いかがわしい感じは二切無く、

真面目そうで、穏やかな雰囲気を感じ、
とても優しそうな人に見えました。

こんな真面目そうな人が
こっそりと
あんなエッチな事を…？

それを想像するだけで私の心は
何か見てはいけないものを
見てしまったような…

そこに囚われてしまうような
気分になっていました。

その人は、
初対面の見ず知らずの私を
穏やかな笑顔で迎えてくれました。

私の緊張を解きほぐすように、
静かにゆっくりと
優しく会話を始めてくれました。

私のペースに合わせて…

その優しい話し方は…

本当に優しく…癒やされて…



いつの間にか、
自分の辛い思いを
洗いざらい全部
話してしまっていました…

その全てを優しく…
本当に全部
受け入れてくれながら
聴いてくれて…

時間を忘れるくらい
いつまでも聴いてくれて…

SNSで見ていた時よりも
もっと…
どんどんこの人を
好きになっていきました…

そして、
会話をしているだけなのに…

それはまるで…

愛撫されてるような…

そんな気分になっていました…

話が終わる頃には、
いつの間にか
手を撫でられていて…

温かくて柔らかくて
泣きそうになりました…

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



じゃあ……そろそろ……

……行きましようか



「今日は事前にお伝えしていたように、他にもあなたと相性が良さそうな子が二人、先に来ているの。」

「一年くらい前から私が癒やしている2人で、とても優しく良い子だし、大丈夫。」

「学生さんでね、色々あって引き籠りになってしまった子達なの。」

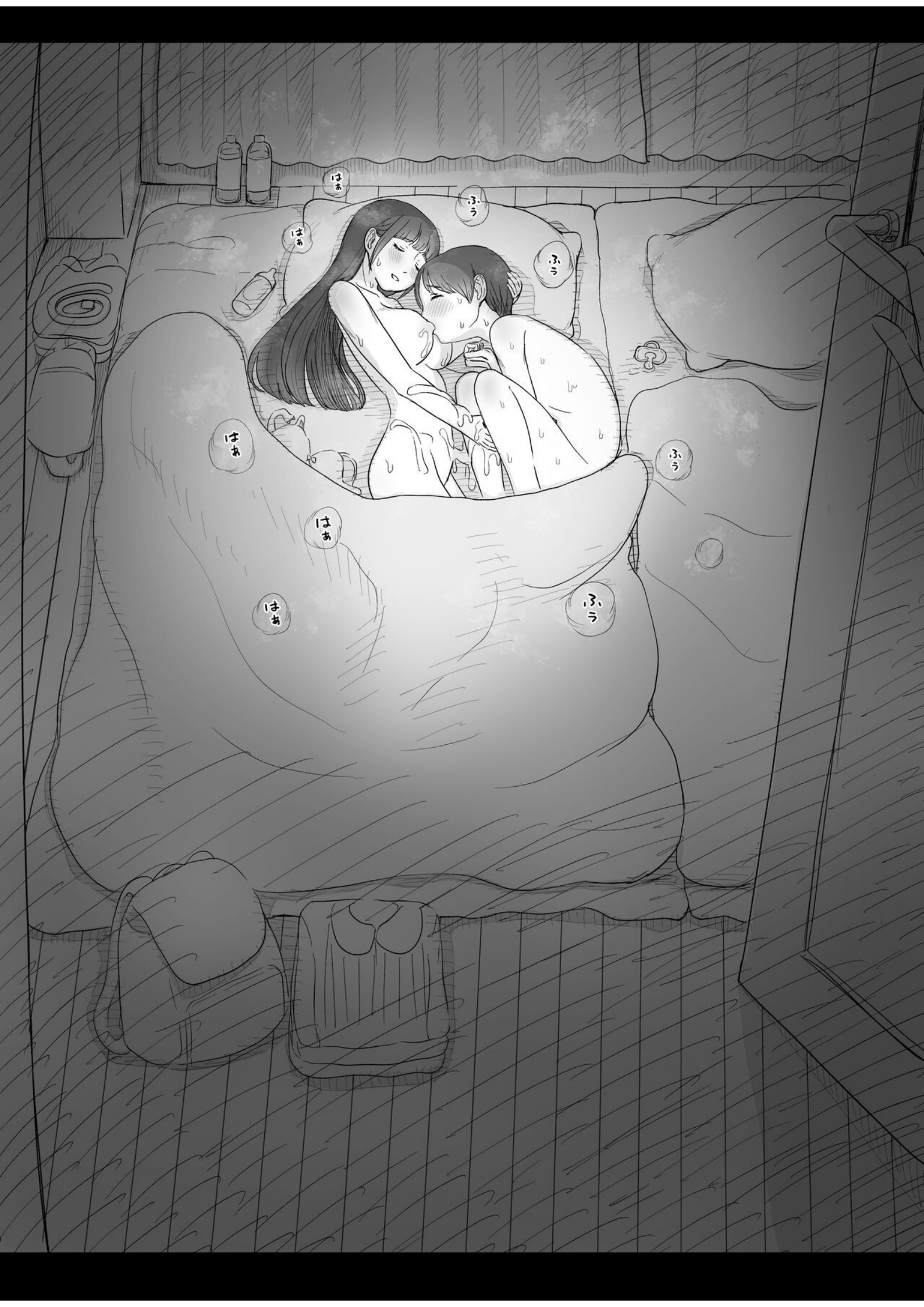
「今では段々元気になって、少しずつだけでも二人だけで生活する為の勉強も始めているの。」

「本当に良い子達よ。安心してね。」

緊張と不安と胸の高鳴りと……
ふわふわどきどきした心で……
現実感の無いような……
初めて恋愛をした時と似たようなこの感覚……

人目を避けながらおねえさんに手を引かれ……
この『癒し合い』の為だけに借りているという
古ぼけたワンルームマンションの二室に連れて行かれると……

そこには優しそうな歳下の女子と男子が布団で……



部屋に居た二人は二八歳だと聞いていましたが、もつと若く見え、私より小柄でした。

引き籠っていた期間も長かったようなので、体が成長し難く、本当に年齢より若く見えるだけかもしれません。

女の子はどこか品があり、育ちが良さそうな子で、男の子は素朴だけど、ボーイッシュな女子と間違えるくらい肌が綺麗で可愛い子でした。

女の子は『りりちゃん』、男の子は『ゆきくん』という名前でSNSをしていると教えてくれました。

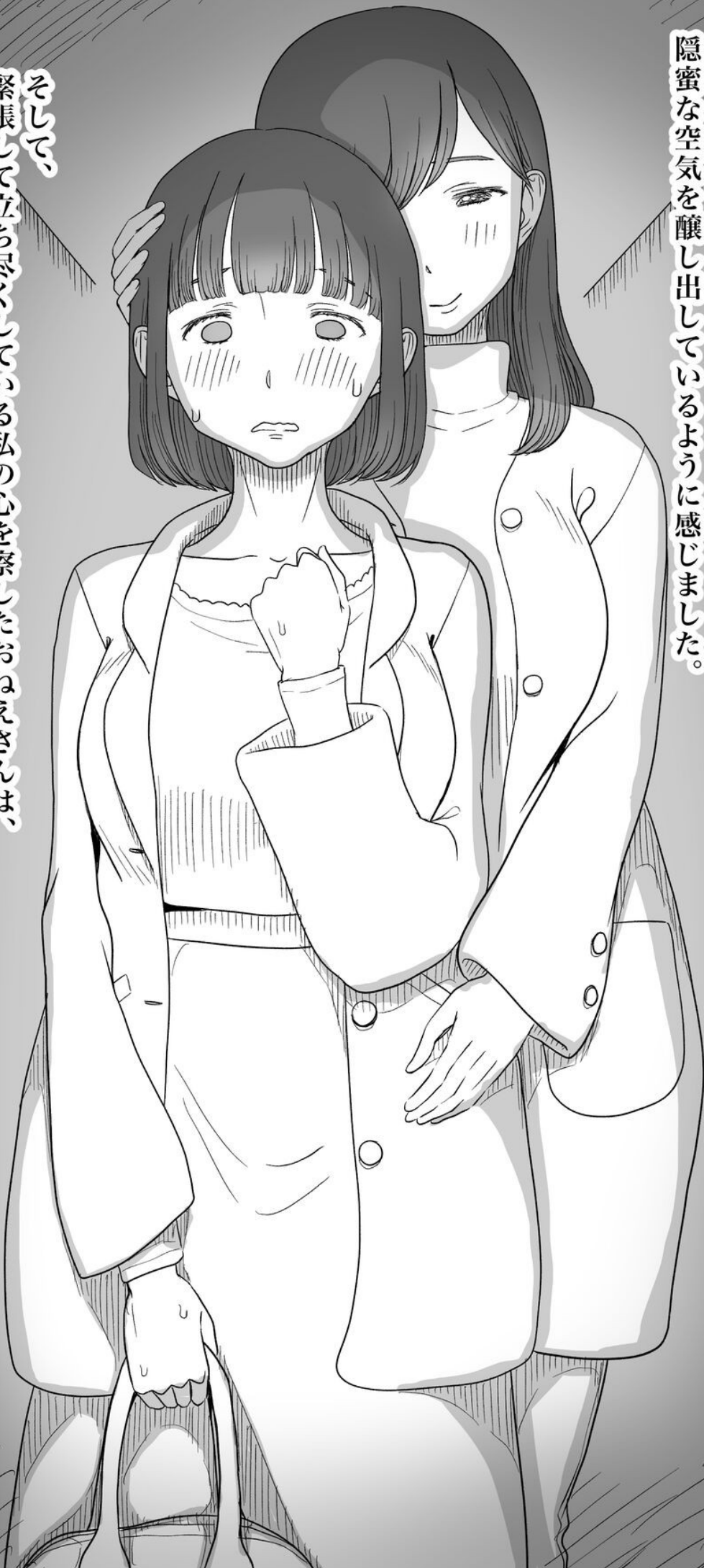
私と同じで、本名ではないのかもしれませんが。

その部屋は本当に簡素で余計な物が何も無く、
床の真中にそのまま布団が三枚敷き詰められていて…

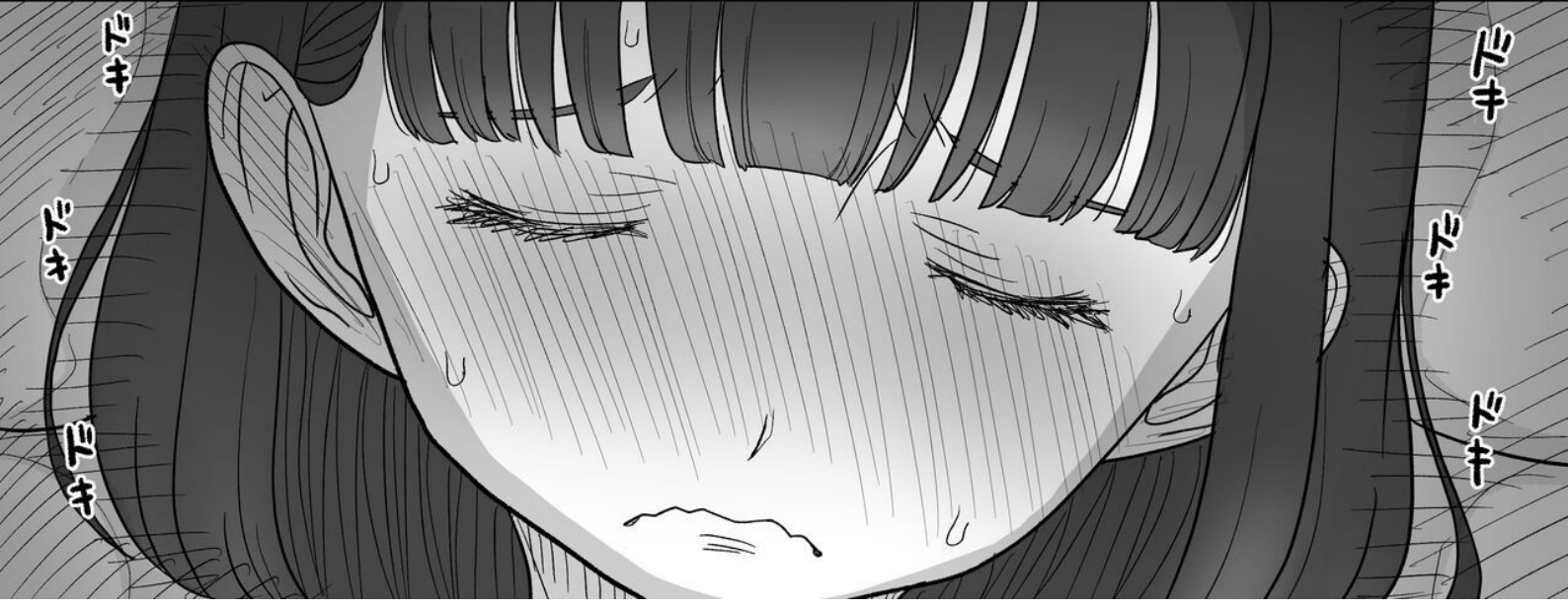
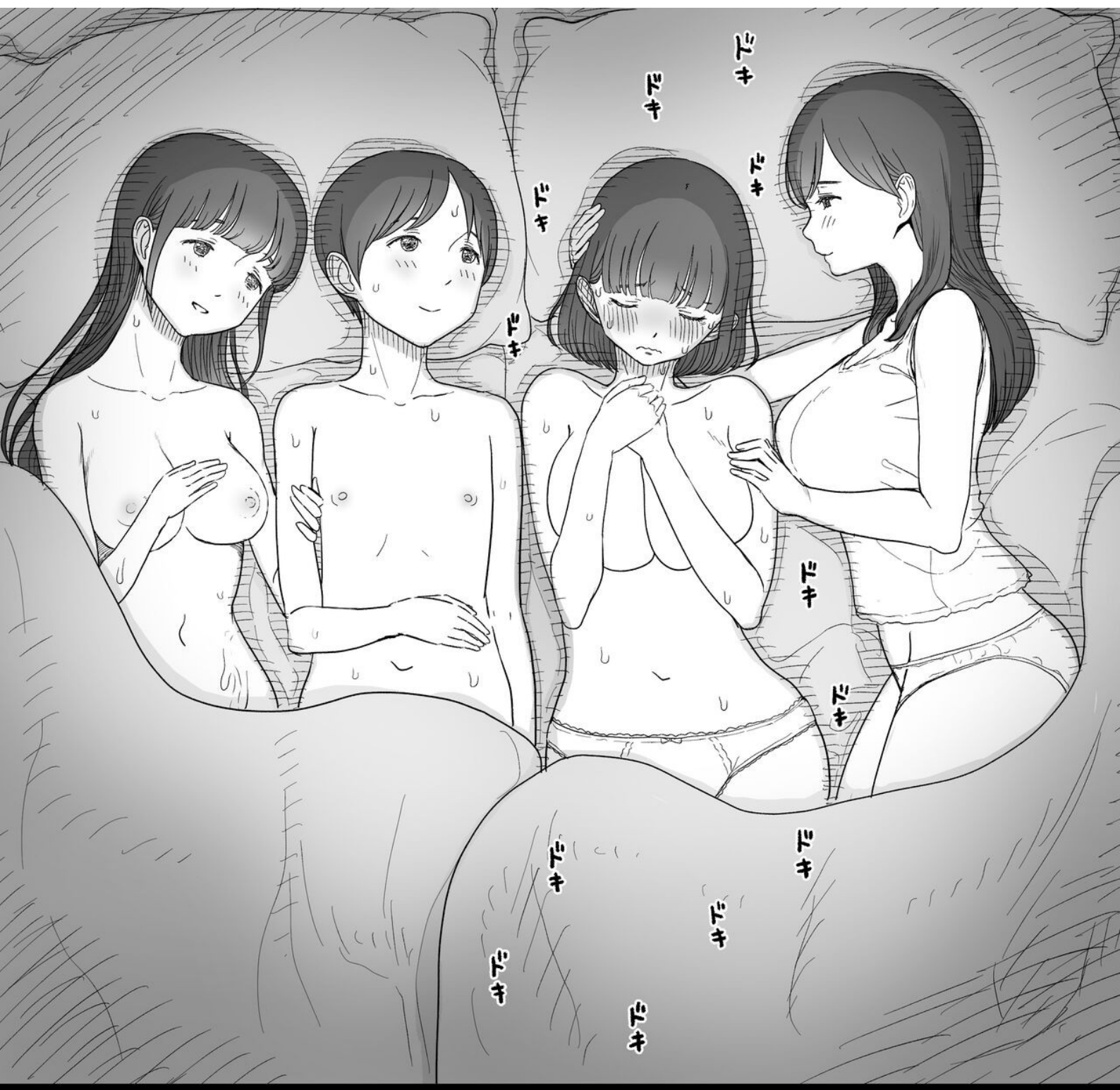
その簡素さが逆に、
この行為の為だけにある部屋なんだという
隠蜜な空気を醸し出しているように感じました。

そして、
緊張して立ち尽くしている私の心を察したおねえさんは、
優しく私の事をハグしながら頭を撫で、

とても自然に三人の居る布団へと促し…

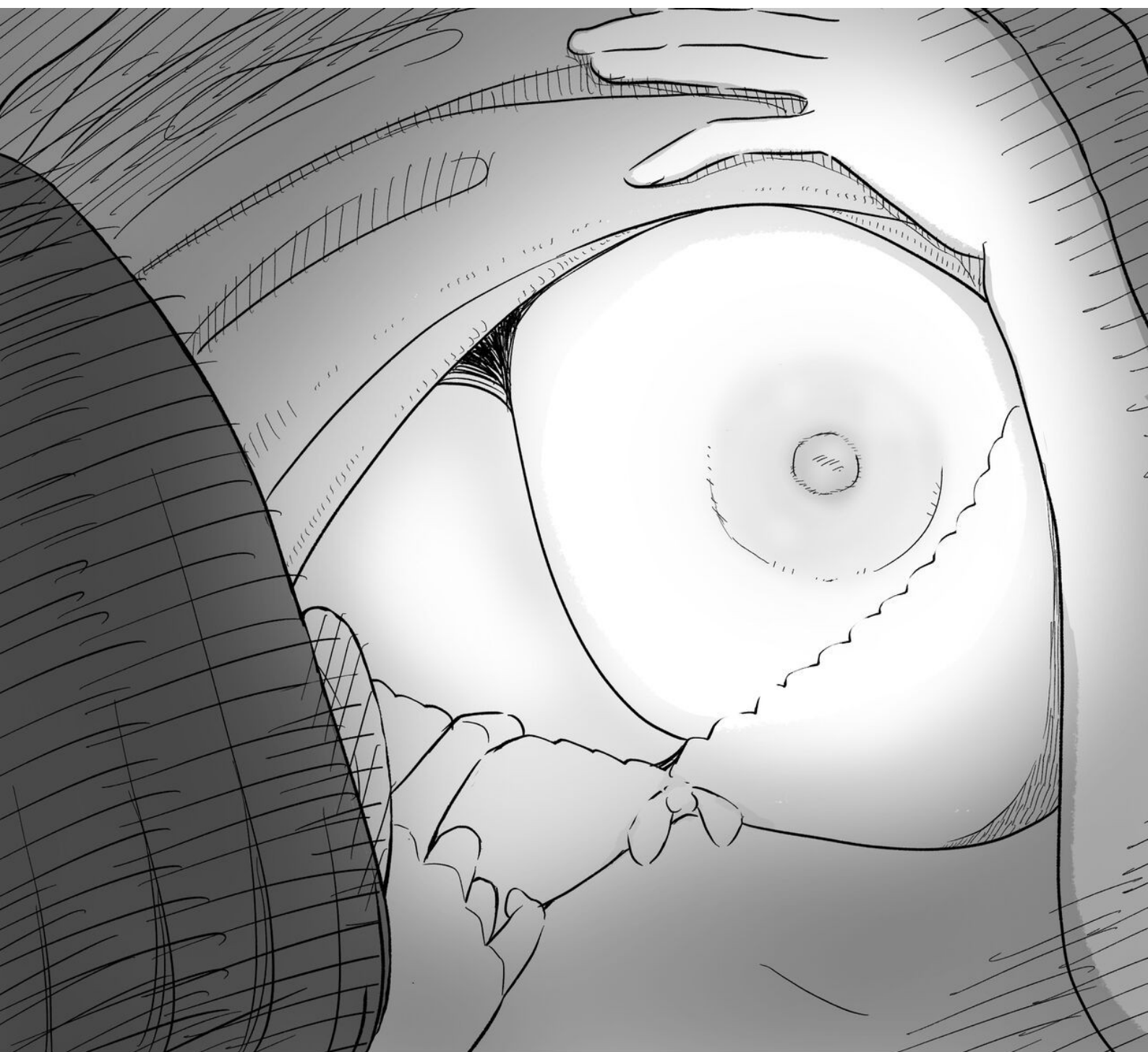


そしてその行為がはじまりました……



女子だつて…

おっぱい欲しいよね。
♡



お.....

おっぱい.....

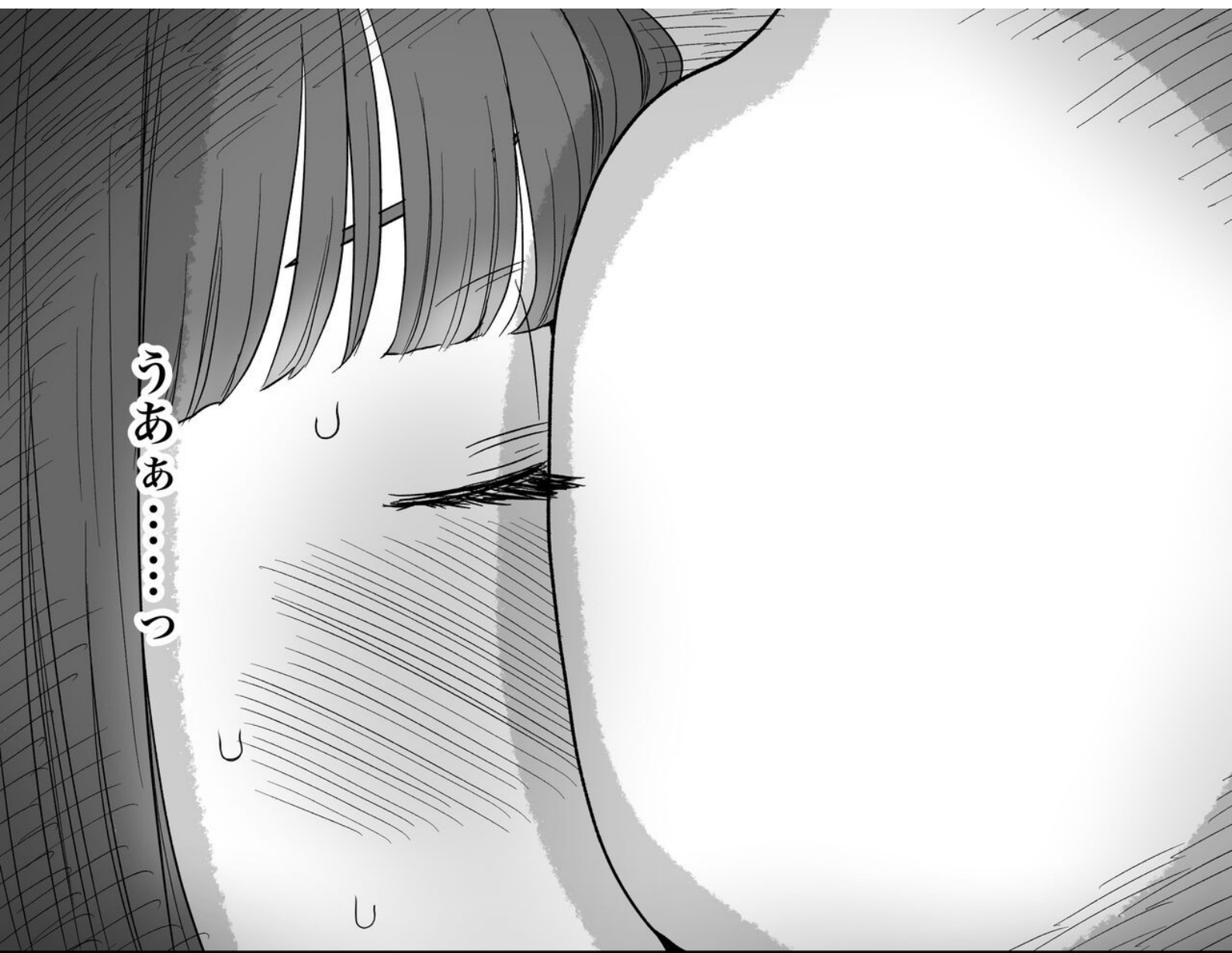
ママから産まれて

おっぱい飲んで

育ってきたんだもの…

ういのよ…

いっぱい好きなだけ…



うああ……っ

そうなの…

男子とちがって…

普通に恋愛していたら

おっぱい一生貰えないまま……

あああ……

欲しかったの……おっぱい……

おっぱい欲しかった……

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ







子供に戻ったように
甘えていいの♡

ほら
抱きついて♡

大丈夫♡

段々と緊張
落ちていくからね♡



よしよし
いいこ♡

毎日
疲れちゃったよね…

なにも
考えないでいいの♡



ふんふん



ぎゅ
ゆらゆら…



3人に沢山愛撫され、敏感になりきった私の全身を
柔らかくて気持ち良いおねえさんに全部くっつけて…

うん、上手

抱っこ
上手にできたね ♡

あったかい…

柔らかい……

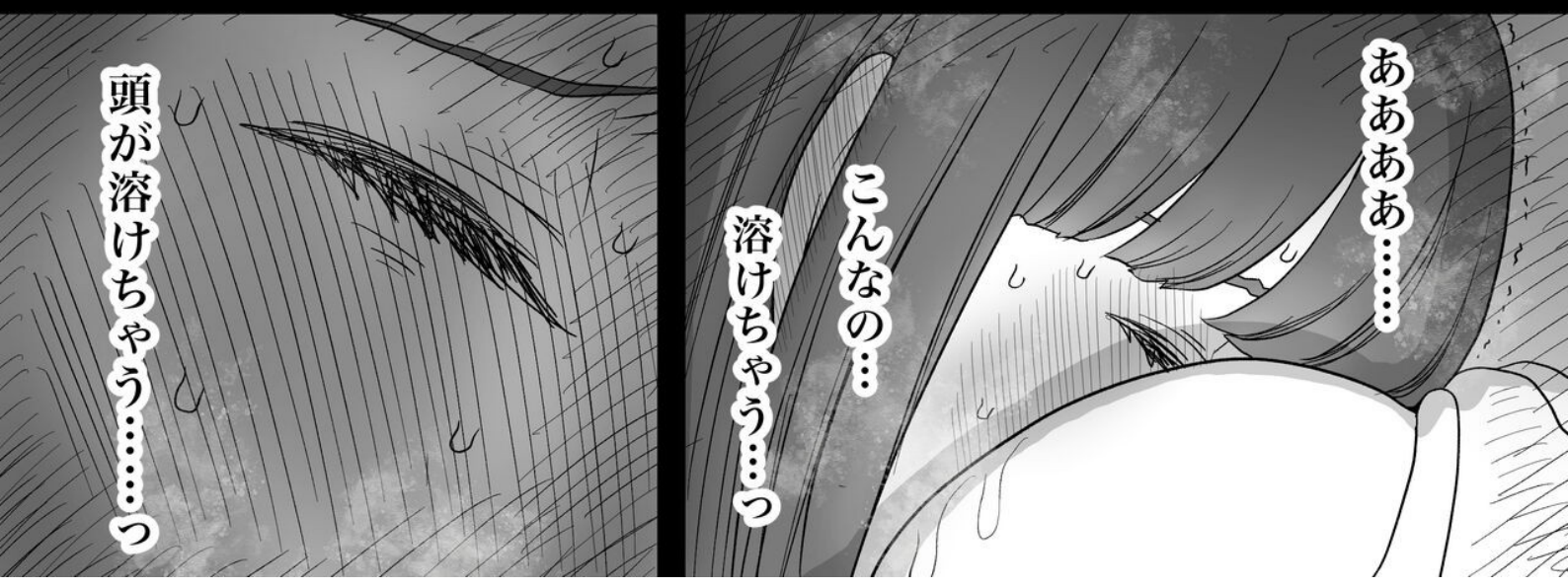


ああああ……

こんなの…

溶けちゃう……っ

頭が溶けちゃう……っ





んああっ

ハッ

ハッ

ハッ

ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ



あああやばい……
こんなおつきく固くしてるの……?

こんな可愛らしくて
綺麗な男子が興奮してるの……?

おっぱいを飲ませられて……
おむつも穿かせられて……
歳下の子の
お●ちんまで触らせられて……

ああ……
頭がおかしくなりそう……

とくん
とくん

とくん

このまま
いきながら……

おしっこ
お漏らししたら……

本当に……本当に……
気持ち良いのよ……

みんな
見てあげる……

はずかしいことも
人には見せられないところも

ぜんぶうけいれて
あげるから……

だいじょうぶ

くち
くち

くち

くち

くち
くち

くち

くち

くち

くち

くち

くち

子供のように甘えること...

甘えながらえつちなこと...

優しくて柔らかい女子に抱きしめられ
えつちされること...

可愛らしい男子とのえつちなこと...

複数人でのえつちなこと...



私がこっそり妄想していた
イケナイことを全部...

はじめてのことがこんなに一度に全部...

恥ずかしいこと...
誰にも見せられないこと...

全部...全部...見られて...
受け入れられてしまつて...

私は.....



ああああああああ

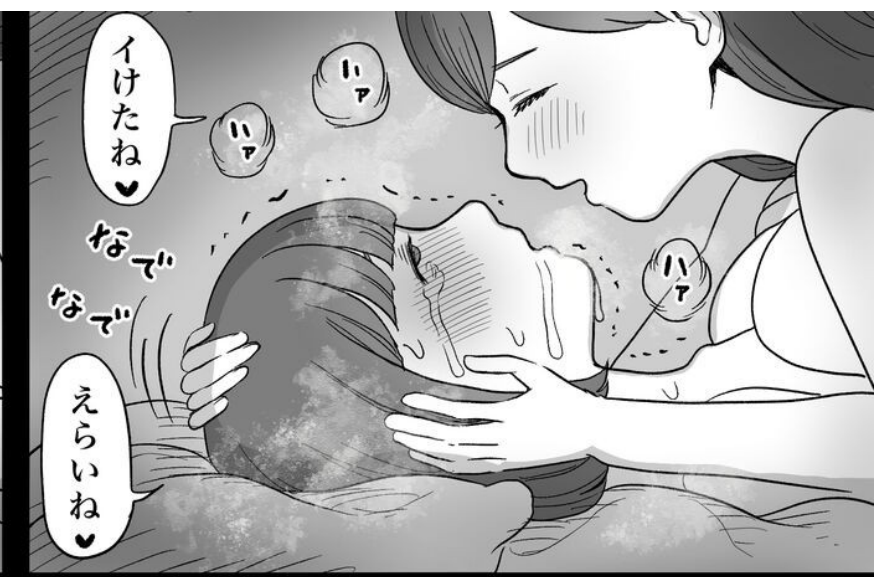
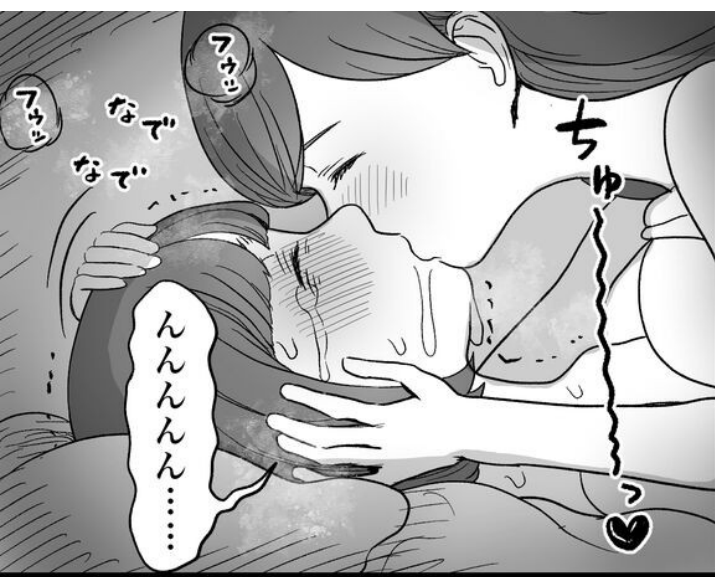
何かが完全に溶けてしまいました.....



じよおおおお...

がく がく がく がく がく

びく びく びく びく びく びく びく びく





ちゅっ♡

おねえさ...ん...
おねえさあん...

ううう...

ちゅっ♡



綺麗にして
あげますね...

ッリッ...



あううっ

だめ…きたない…

はずかしい…

スリ♡

スリ

ほぞ
ほぞ

ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

だいじょうぶ♡

きたなくないですよ♡

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

ハイ

そろそろ：
もつとちゃんと
イきたいよね♡

僕の：
入れられたいですか？♡

入れられながら：
甘えながら
イきたいでしょう？♡

素直になつて
いいんですよ♡

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ドム

ドム

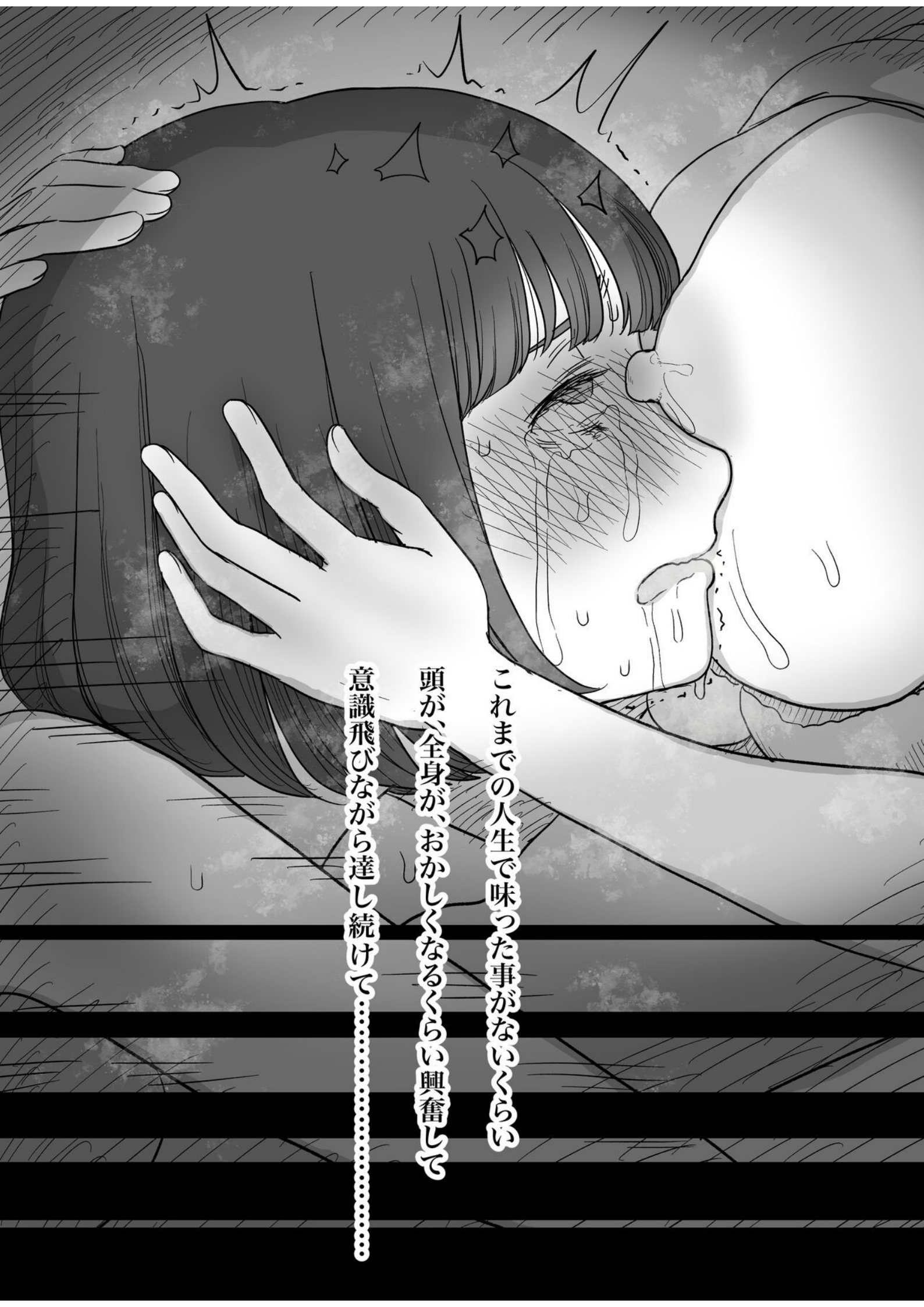
ドム

ドム

ぷく...

うううう…

は……はい……



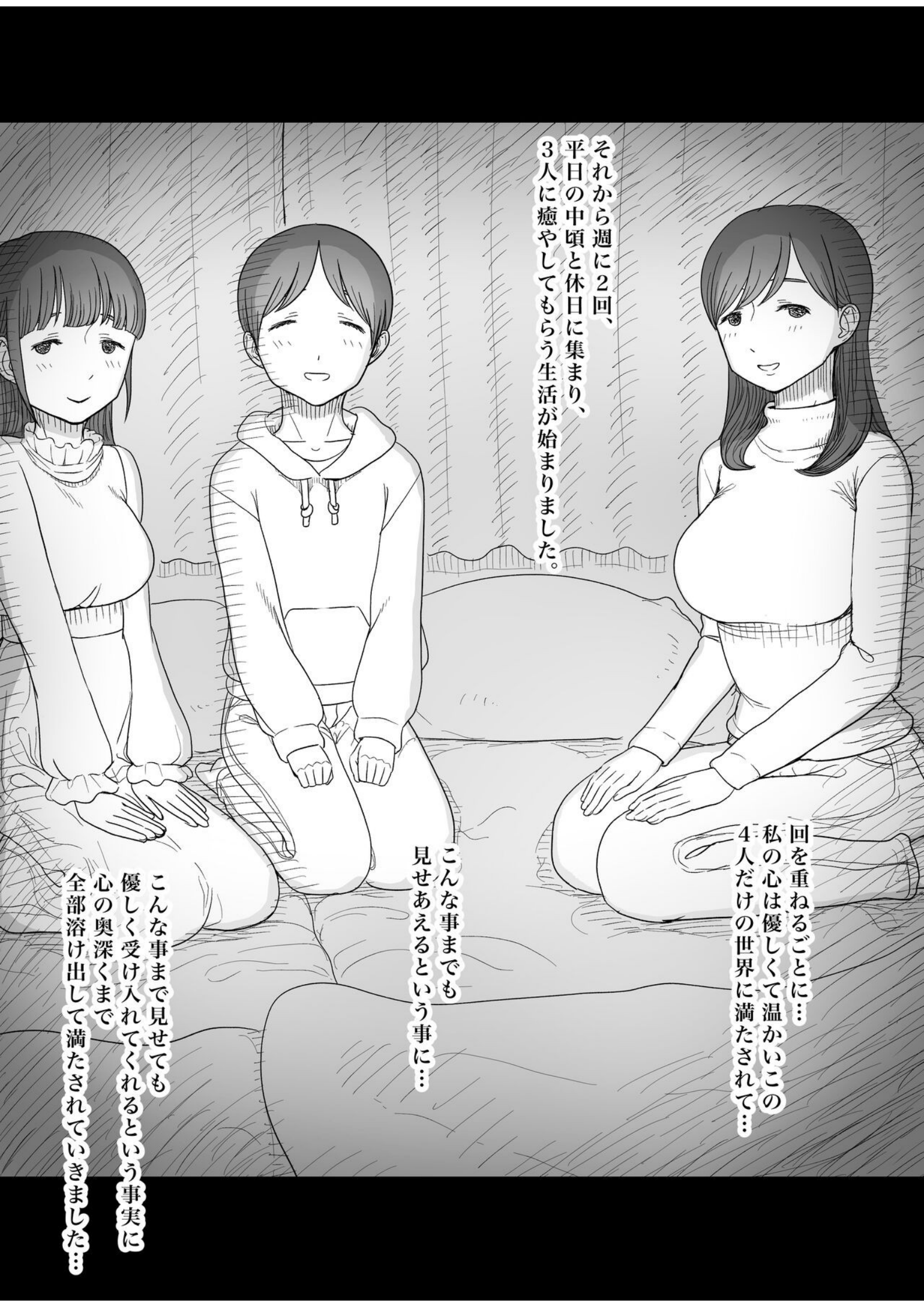
これまでの人生で味った事がないくらい
頭が、全身が、おかしくなるくらい興奮して
意識飛びながら達し続けて……

そのままその日は何もかもわすれて

泥のように溶け出して

完全に意識を失うまで

夜通し3人に甘やかされました……



それから週に2回、
平日の中頃と休日に集まり、
3人に癒やしてもらおう生活が始まりました。

回を重ねるごとに…
私の心は優しく温かいこの
4人だけの世界に満たされて…

こんな事までも
見せあえるという事に…

こんな事まで見せても
優しく受け入れてくれるという事実
心の奥深くまで
全部溶け出して満たされていきました…

プレイの度に、私の心は解きほぐされて…
おねえさん達の私への行為は、より甘く濃密になり…
深い深い愛を感じ…トロけて…



おねえさん達の深い愛情からプレイもどんどん進み…
自然と私の心の奥深くに隠れて求めていた
本能的に気持ち良い事を引き出し、
いっぱい可愛がってくれて…

イクイク！
イクイクイクツ！

気持ち良いね
気持ち良いね

優しいおねえさんに抱かれながら胸をオモチャで可愛がられ、
女の子からはペニスバンドでお尻を責められ…
男の子の愛の感じるゆっくと丁寧な子宮への責め…

うんっ！
うんっ気持ち良い！

たんたんたんたんたん

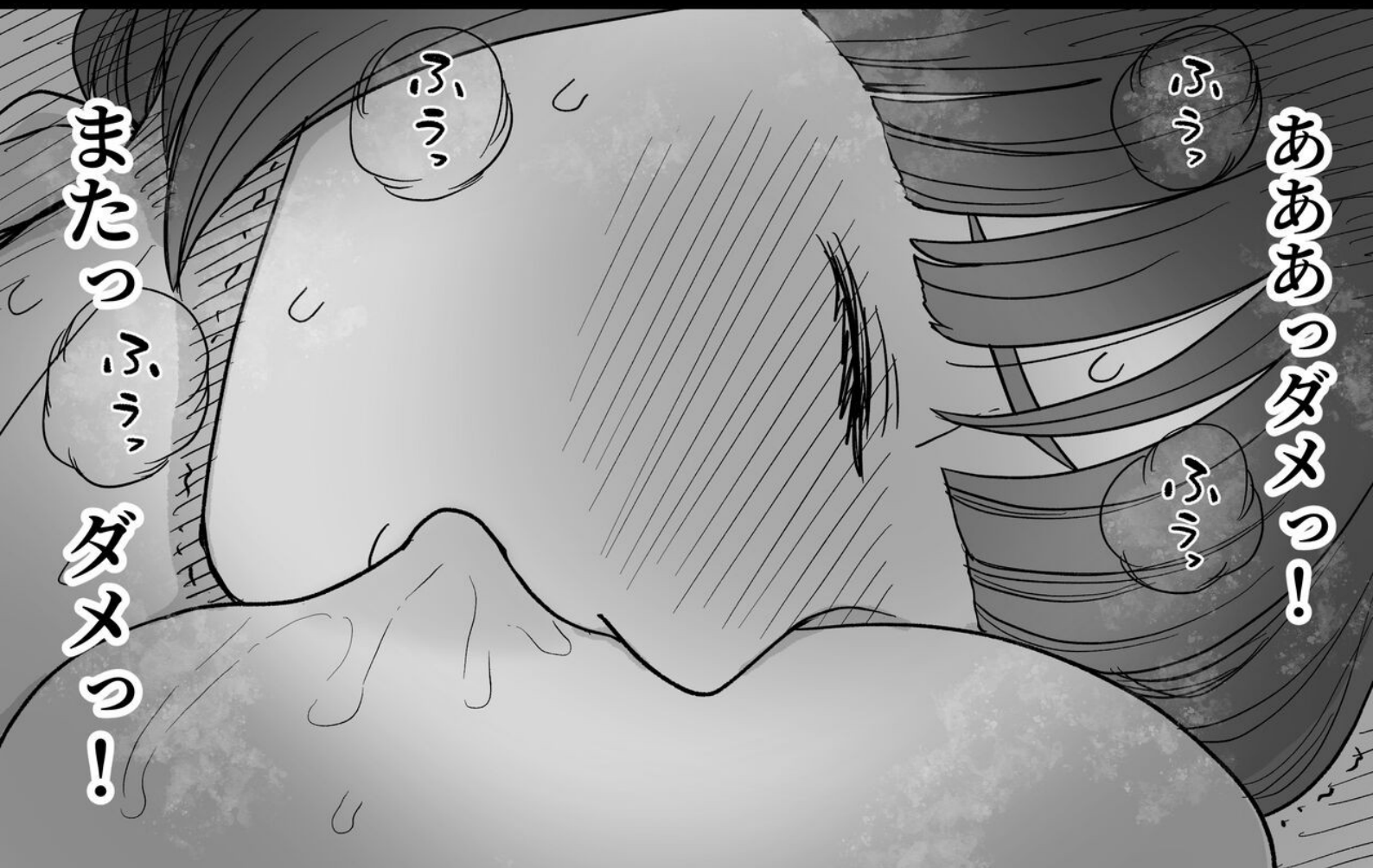
3人からの…
私の気持ち良いと感じる
反応を感じ取りながらの甘責めを
私は全身で享受しながら…
私はこの集まりの度に、
何度も何度も何度も
頭空っぽになりながら
達し続けました。

イクイクツ！
またイっちゃう！





沢山、沢山、可愛がられて、甘やかされて.....





おねえさんの作ったこの深い愛情空間に

心の底から癒され続け…

身も心も許しきって私の退行はどうしようもないくらい進み……



ちゅーちゅーちゅー

あーっ...

ちゅーちゅーちゅー

じゅあああ

あーっ

あーっ



ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

あう〜

あう〜

あう〜

さわさわ
さわさわ

くち♡

くち♡

くち♡

くち♡

そして私は.....

そして私は、おねえさん達のお陰で
身も心も回復していきました。



今日も…
あの時間だ…♪

この生活が始まってから何ヶ月か経った頃には、
3人と親友のように仲良くなり、
秘密の時間以外でも会ってお話するようになりました。



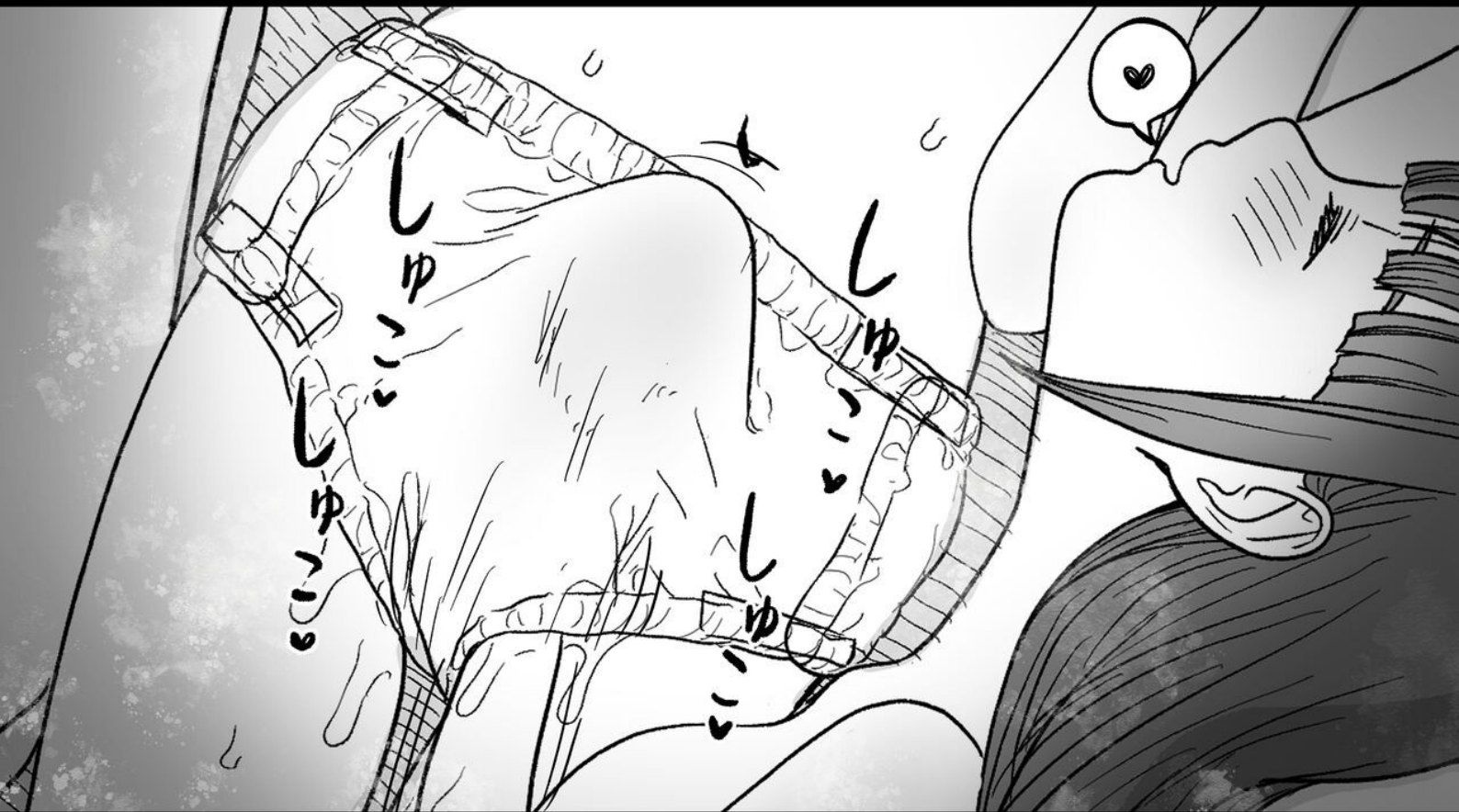
はじめは甘えるばかりだった私も、
りりちゃんやゆきくんの悩みを何度か聞いているうちに、
2人のことを他人とは思えなくなりました。

今日は
ゆきくんをいっぱい
みんなで可愛がって
あげようね ♡

ゆきくんは片親で、
家庭環境が
あまり良くないようです…

物心ついた頃からは
本当のママと会ったことが無いらしく、
母性にとっても飢えていました。







そう。りりちゃん上手。♡
根元まで飲み込みながら
小さく早く上下に動かして♡

今度はゆっくり大きく
先の方から根元まで
動かしてあげて♡

うんそうよ。
すごく上手♡
ほらゆきくん
すっごく
気持ち良さそう
でしょう？♡

喉の奥でおち○ちん
凄い事になってるの
感じるでしょう？♡

うんっ。うんっ。感じるっ

それからね、
喉の奥で咀嚼するように
ごくっごくっで飲み込んで
締め付けてあげるの♡

んあ♡んあ♡あ♡

ビュルルルルル

ああああああああああああああああああああ

ドクドクドクドクドクドク



そしてゆきくんにはもう一つ人には言えなかった事が私達だけにしか見せられない姿がありました。

じゃあ……

らつもの……

フッ

フッ

フッ

今日もしようね……♡

フッ

うん……

フッ

フッ

ゆきくんは女の子になって可愛がられたい願望がありました。

かわい...♡

今日もいつものように、仲良しのりりちゃん服を着せられて...









ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ふん

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

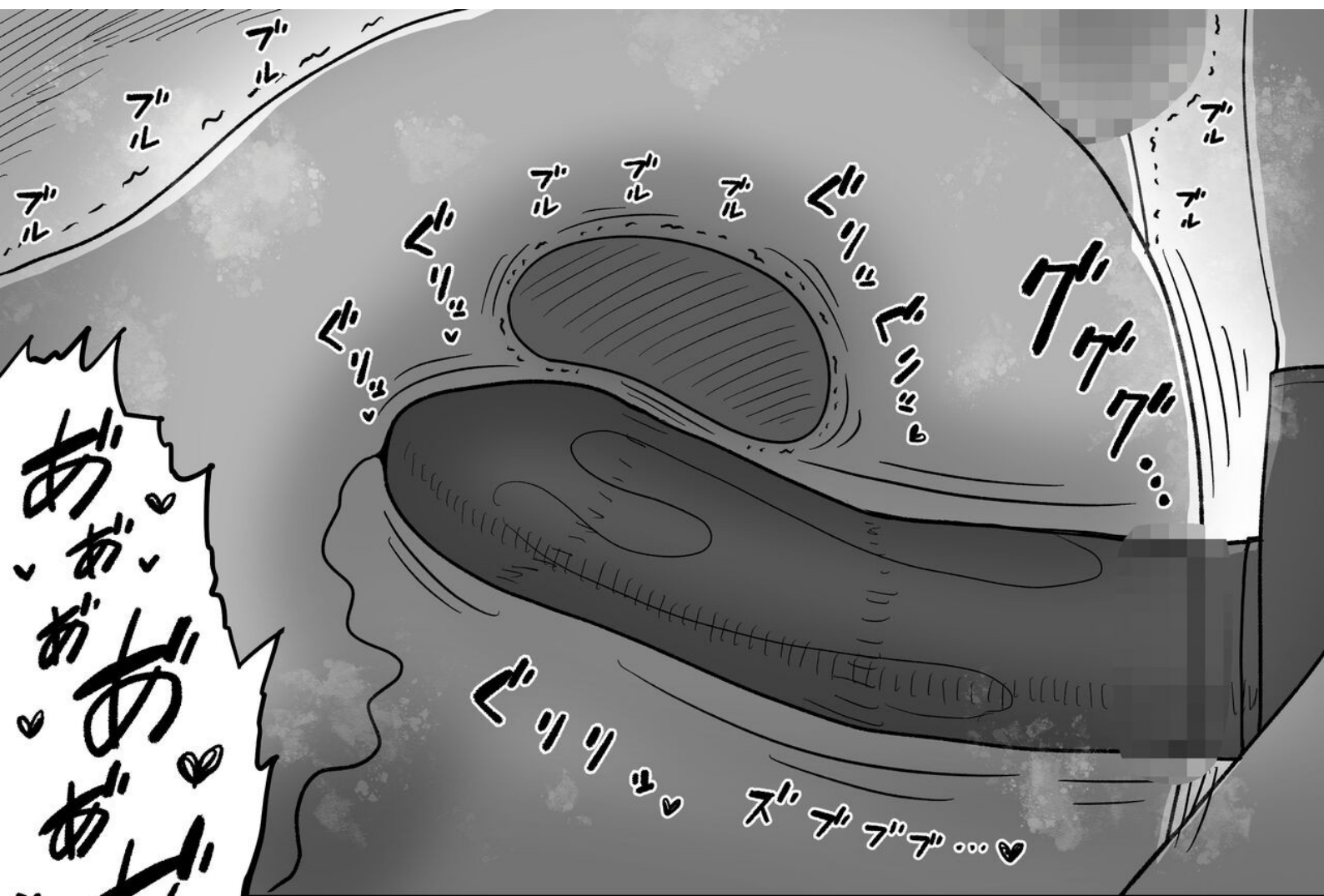
ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ







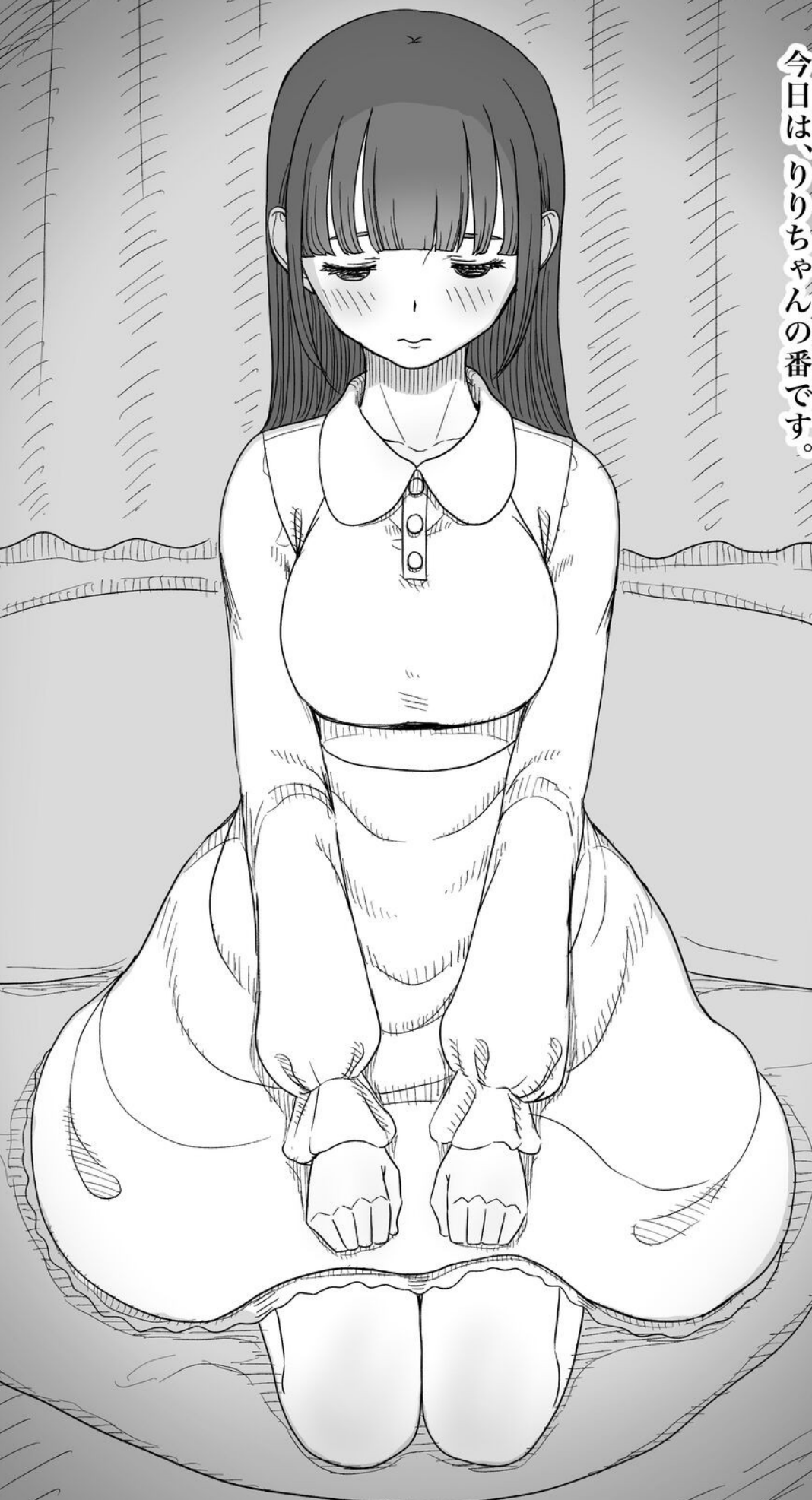


ゆきくんはこの秘密の行為によって、

今日も俯き暗かった顔色から
穏やかな表情へと戻り、

いつものようにか細い声で礼儀正しく御礼を言い、
帰っていきました。

今日は、りりちゃんの番です。



りりちゃんはかなりのMで…
きついプレイじゃないと心が満たされないようでした。

りりちゃんは両親にとっても躰厳しく育てられ、
その反動なのか、Mプレイ好きな性癖になってしまったようです。
家族関係が悪く、家に居場所がないようでおねえさんに救いを求めて今に至るらしいです。



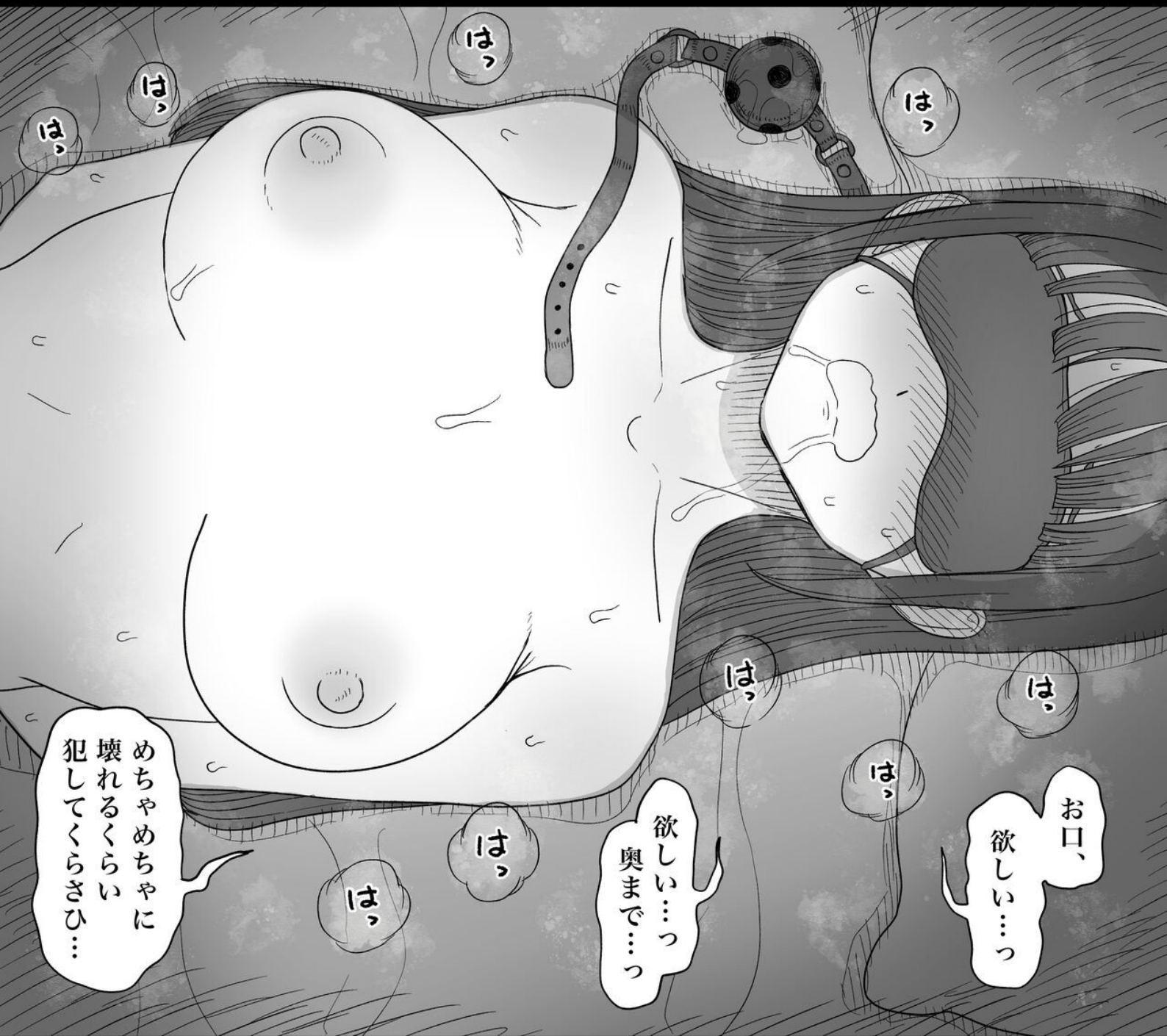
りりちゃんは、逃げられないようにガチガチに拘束されて、
目も奪われた状態で滅茶苦茶に犯されるように可愛がられるのが大好きです。

何をされるか見えない状態でまずは沢山の玩具で敏感な所を全部、
優しく、そして段々と激しく太いモノへと換えながら入念な程いっぱい可愛がってあげて...



そして、2人のペニスバンドで滅茶苦茶に前と後ろとの穴をサンドイッチで犯されイッた後…





はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

めちやめちやに
壊れるくらい
犯してくらさひ…

欲しい…っ
奥まで…っ

お口、
欲しい…っ

すっかり性感帯の一つとなっている喉奥に…

ドキ

ドキ

ドキ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

ドキ

ドキ

(欲しい欲しい
早く早く)

はっ

大好きなゆきくんのお○んちんを根元まで入れて貰い…

ドキ

ず

ず

ず

ず

ズンズン

ズンズン

(くっ苦しいっ
おつきくて固くて熱くて
気持ちいいっ)

(頭がふわふわいっぱいになれう
お○んちんみるく欲しいっ
みるくつみるく出してっ)

ブルブル



もっとな...
もっとなしてえ.....♡

この前してくれたみたいにな...
三人で一緒に犯してえ.....♡

もつと滅茶苦茶に
してくらさい.....♡

ハアッ

ハアッ

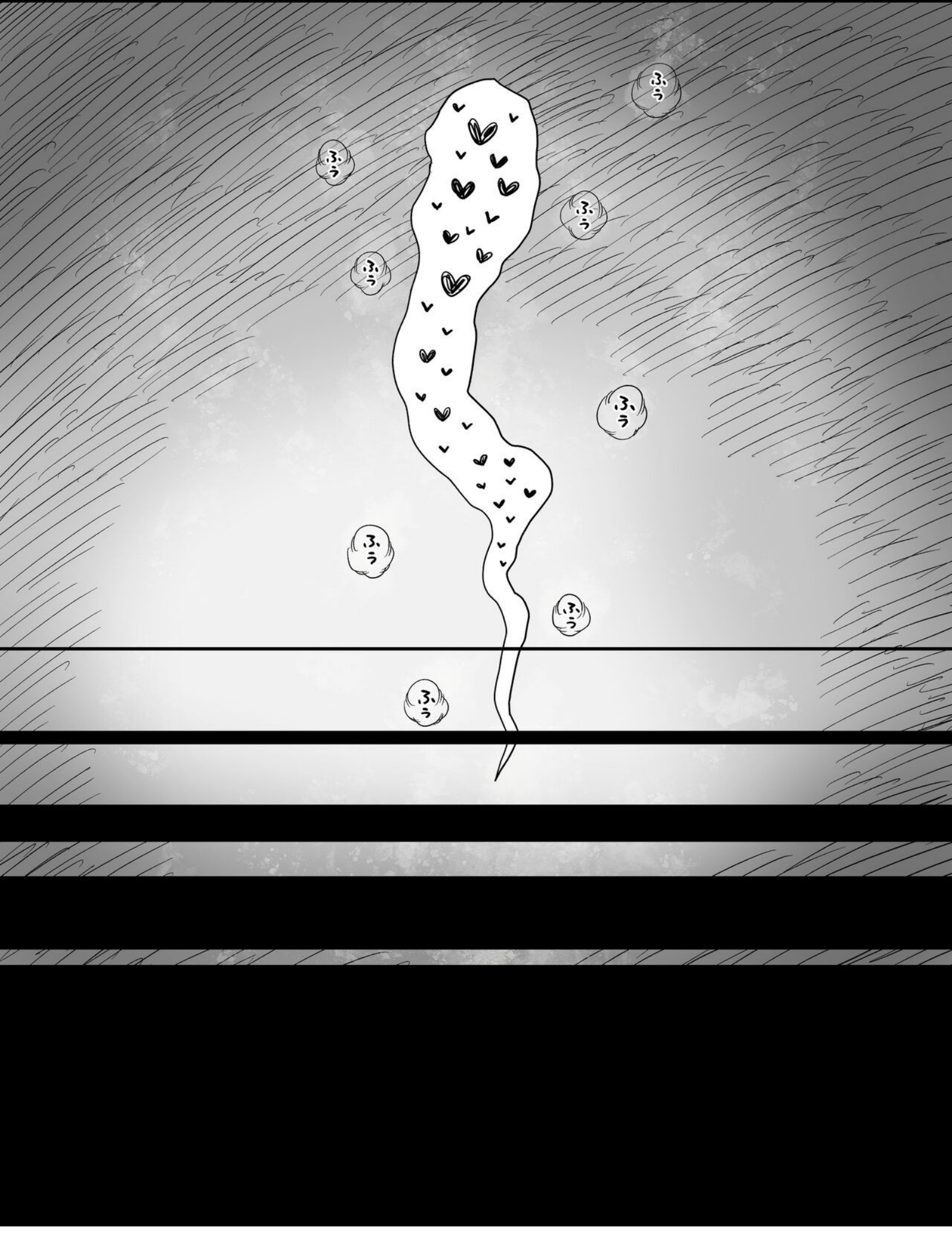
ハアッ


ハアッ

ハアッ

ハアッ







拘束を解かれ、
ぐちゃぐちゃになった全身を綺麗にされたりりちゃんは…

りりちゃんもいつものようにとても穏やかな表情に戻り…
1日の最後は1番仲良しのゆきぐんと…
女装じて女の子になったゆきぐんママの
おっぱいを吸いながら結合してひとつになり、
2人で繋がったまま至福の心地でまどろむのでした。

りりちゃんとゆきくんは、

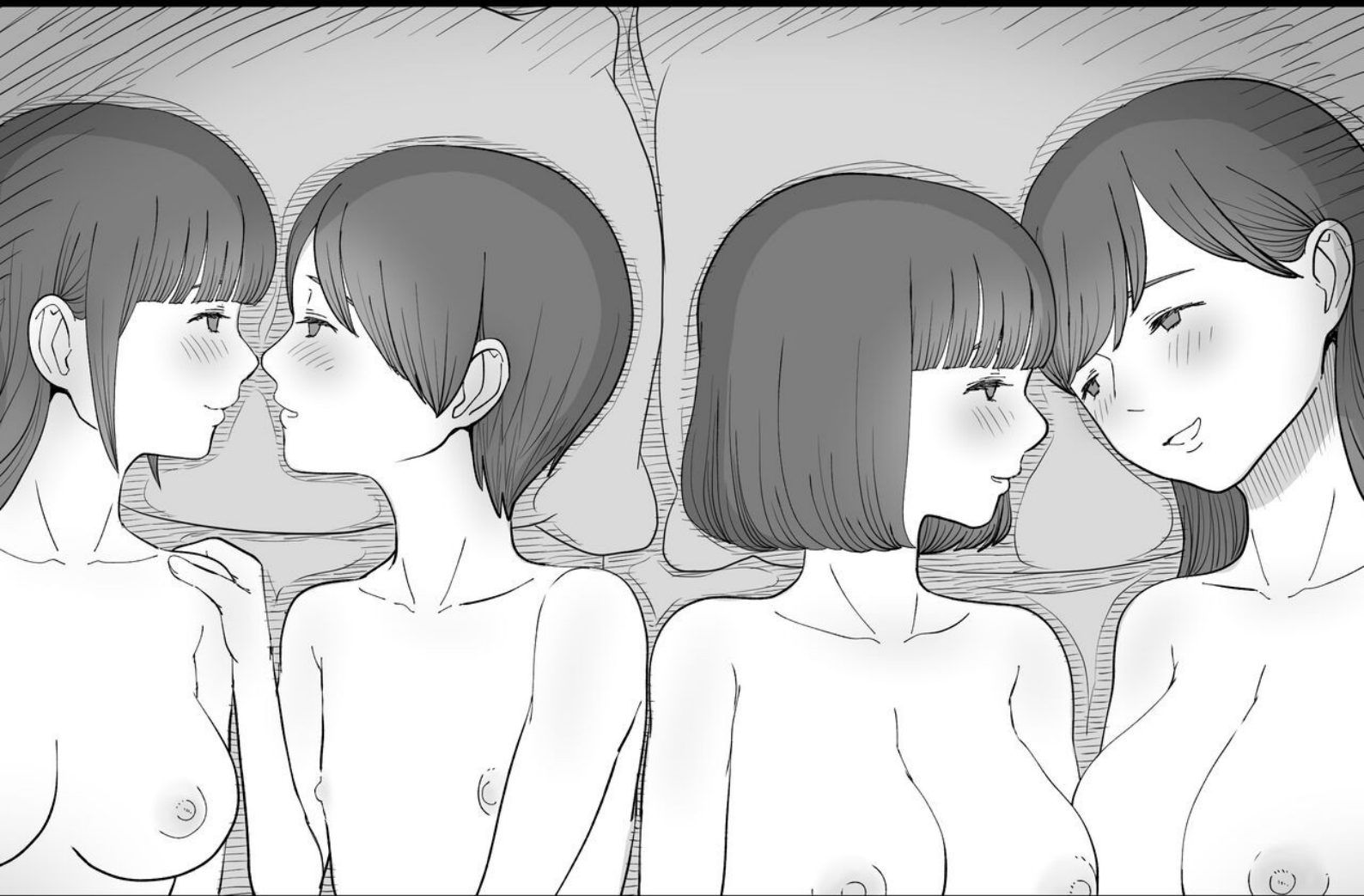
以前はそれぞれ別々に、一人ずつおねえさんに癒してもらっていました。

おねえさんは、

このセラピーで癒され穏やかになってきた二人の頃合いを見計らい、

お互い孤立していた二人を結びつけて、今の深い関係にまで導いたのでした。







フウッ

フウッ

フウッ

フウッ

フウッ

フウッ

フウッ

フウッ

フウッ

フウッ

ズッ♡ズッ♡ズッ♡ズッ♡ズッ♡

クチ♡
クチ♡
クチ♡
クチ♡
クチ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡



くた...



あ...

ホロ...

ああああああああああああああああああああああ

よしよし

よしよし



おねえさんは、この優しい退行SEXの輪を
本当に広めたがっているようでした。

おねえさんも実は昔、同じように、
ある人にこの秘密の行為で癒してもらい、
救われたことを話してくれました。

おねえさんは元気になって卒業した今、
私もあの人のようにみんなを癒やしたい、
そしてその輪を少しずつ広げたい。

これをやり続けていくことが、
今はとても生き甲斐になっているということ
話してくれました。

おねえさんと同じように、
他にもこっそりと小さくこのセラピー活動
をしている人達もいるようです。

私達にも、もし人生で生き甲斐など
見つからなかった時は、
同じ輪を広げてくれると嬉しいと
言っていました。

その言葉もまた、
おねえさんを救ってくれた人から
伝えられたことだそうです。

1年が経った頃には
日常生活は変わらず大変だったけれど、
すっかり私も元気になりました。

りりちゃんとゆきくんも元気になって卒業し、
三十歳になってすぐ、
自立して2人で一緒に暮らし始めて、

その新居で新しく2人で
人を癒やすこの活動を始めたようでした。



卒業してからも私達4人の交流とセラピーは
それぞれが何かある毎に度々集まり続いています。
この貴重で濃密な心の繋がりは
一生壊れる事は無いでしょう。

そして私も3人と同じように……

このセラピーを必要としている他の誰かを癒す
素敵なこの輪を広げていく事を……

私自身の新しい生き甲斐として………

おわり

甘やかせつくすふれんず

サークル：ひまわりのたね
作：種乃なかみ

2023/03/06